

日本固有ノ柑橘やまとたちばな

シテ大正六年ヲ溯ルコト實ニ二千十有三年前ノ事ナリシ

而シテ尙ホ太古神代ノ世ニ溯リテ之ヲ推考スレバ我が國開闢以來年ヲ閱ルコト茲ニ其幾千萬ナルヲ知ラズ蓋シ太古以來草木ハ既ニ蓊々トシテ榮エ鬱々トシテ地上ヲ掩ヒ當時人類亦既ニ其間ニ棲息セシコトハ敢テ余ノ言ヲ待タザル所ナリ然ルニ往古蒙昧ノ世、人口稀少交通ノ便未ダ備ハラズ且文字未ダ開ケズ百般ノコト只口碑ニ相傳ヘ記錄ノ據テ以テ徵スベキモノアラザレバ素ヨリ之レヲ確ムルニ由ナシト雖我が國四面海ヲ環ラシ加フルニ氣候温暖ニシテ百花草木悉ク蕃茂セザルノ地ナキヲ以テ之レヲ觀レバ當時既ニ野生ノ植物ト共ニ柑類亦其間ニ雜植セラレシコトハ今ヨリ之レヲ想像スルモ敢テ正鵠ヲ失ハザルニ庶幾カラシカ

尙ホ舊記ニ據リテ往古神代ノ事ヲ按ズルニ素盞鳴尊八十餘種ノ果樹ヲ栽サセ賜ヒ其ノ息五十猛ノ神更ニ八十木種ト果樹トヲ蕃殖セシメラレタル等ノ事アレバ此等ノ種類中柑類ニ屬スル者モ亦之レアリシ事ハ蓋シ疑ヲ容レズ余ハ少壯ノ時ヨリ柑橘並ニ其他ノ果樹ヲ專攻シ屢本邦各地ノ山野ヲ跋涉スルコト既ニ幾回ナルヲ知ラズ而シテ南ハ遠ク海路ヲ隔テ、八丈、小笠原島ノ諸島ヲ周遊シ延テ西南ノ諸島ニ及ビ屋久島、種子ケ島、大島及ビ琉球等ヲ經テ臺灣ニ渡リ到ル處ノ地、柑橘ノ異種奇品ヲ產スルモノ其數實ニ幾十種アルヲ究メタリ

顧ミテ九州ニ航シ肥後、肥前、薩摩ヲ經テ日向ニ渡リ到ル處柑橘雜種ノ奇品ヲ發見スルモノ頗ル多シ殊ニ舊飢肥藩領折生^{オリキ}追^{オヒ}以南海岸ヲ經テ舊高鍋藩領福島地方ニ至ルマデ其間凡ソ二十四里氣候極メテ温暖ニシテ冬月ト雖殆ンド霜降ノ憂ヒヲ見ズ故ニ苦橙^{ダイダイ}、柚子^{ウズ}ノ類山中處處ニ野生シテ他ノ樹木ト相異ナルコトナシ就中南部市木村^{イナギ}ノ如キハ海岸松林ノ間橘樹ノ自生頗ル多ク累々タル黃果ハ日月ト光ヲ爭ヒ實ニ始メテ之レヲ目撃セシモノハ覺エズ手ヲ拍テ快ト呼バザルモノアラザランヤ此橘樹ハ即チ柑橘一種ノ元祖ニシテ全ク本邦原產ノ品種ナリ因テ余ハ自ラ之レニ尊キ新名ヲ與ヘテ大和橘^{やまとたちばな}ト稱セリ而シテ牧野富太郎氏ハ曾テ之ヲ土佐ニ得テ當時之ヲやぶたちばナト命名セラレタルコト同氏ノ手記ニ見ユ

野生ノたちばな

即チやまとたちばな一名やぶたちばな (縮圖)

(明治二十五年一月牧野富太郎氏寫生、土佐高岡郡カラ谷自生品)



Citrus nobilis LOUR. var. Tachibana MAKINO.

余ハ宮崎縣ニ在リテ職ヲ奉ズルコト十餘年屢市木村ニ赴キ滯留月餘常ニ公務ノ餘暇ヲ以テ柑橘ノ所在ヲ探索シ此ニ於テカ始テ上ニ記スル所ノ品種ヲ發見シ眞ニ我國固有ノ柑橘トシテ偏ニ賞賛措カザル所ナリシガ其後任地ヲ東都ニ移シテヨリ機ニ觸レ此等ノ事蹟ヲ以テ學兄牧野富太郎氏ニ談ジ近時又之ヲ農學士田中長三郎氏ニ談ジタリ牧野氏ハ土佐佐川ノ人ナリ曾テ土佐自生ノ橘ヲ明治二十九年發行ノ日本園藝雜誌第七十五號ニ掲テ其說ヲ世ニ公ニセリ即チ余輩ノ品ト同一ナリ(今其圖ヲ上ニ掲グ)其後田中氏ハ態々弊端ニ來リ滯留數日種々ノ柑橘類ヲ研究シ同年同氏ハ九州ニ渡リテ親シク自生ノ地ヲ實踐シ眞ニ余ガ說ノ妄ナラザルヲ確メラレタルハ亦斯道ニ熱心ナル學士ト謂フベキナリ

治二十年六月十五日ニシテ大正六年ヲ溯ルコト三十年前ノコトナリシ即チ此日村吏ヲ伴ヒ市木村字石波浦ニ至ル老松天ヲ摩シ樹下鬱塞ス中ニ點々自生ノ柑橘アリ枝葉稠密最モ濃綠色ヲ呈セリ

此地冷泉アリ泌ト云フ冷泉能ク鐵ヲ含ミ病ヲ治ス舟津他人ナルモノ浴室ヲ松下ニ設ケテ客ヲ招ク四方其名ヲ聞

日本固有ノ柑橘やまとたちばな



Citrus nobilis Lour. var. *Tachibana* MAKINO.
forma domestica MAKINO.

テ浴客常ニ斷ユルコトナシ此邊亦種々ノ奇柑多シ山住熊吉、松下末吉兩氏ノ家ヲ敲キテ邸内ノ柑類ヲ觀ル枝葉地ニ委シ頗ル豐産ノ兆アリ是レ天然ニ放任セル栽培ナリ殊ニ松下氏ノ庭園ニ存スルモノハ一種ノ甜橙ニシテ俗ニ唐蜜柑ト稱スルモノ是ナリ地上ヲ距ルコト六尺五寸ノ處ニ於テ周圍六尺、高サ六間餘枝條四方ニ擴ガリ壯大驚クベシ該樹年ヲ經ルコト百六十餘年、實ヲ結ブモノ歲毎ニ一萬二千顆乃至一萬六千顆ニ至ルト云フ實ニ甜橙類中日本第一ノ巨樹ト稱スベキナリ是ニ由テ之ヲ觀レバ古來此地ノ柑類ニ適當ナルコト亦以テ其一斑ヲ知ルニ足ルベシト思ヘリ

其後明治二十三年三月故農學士田中節三郎氏ハ蘭人クレーベリユース氏ヲ伴ヒ南那珂郡ニ來リ地ヲ板敷村ニ相シ幾那樹等ノ熱帶植物ヲ試植セリ當時余亦之レニ關シ屢同氏ト相往來シ互ニ植物ノ研究ヲナセシガ一日余ハ大和橘ノ事ヲ以テ同氏ニ語リシニ氏ハ大ニ之ヲ奇トシ翌日發程シテ市木村ニ赴キ相共ニ枝葉ヲ集メテ腊葉トナシ余ハ今尙ホ之ヲ保存セリ

今左ニ大和橘ノ形狀性質及ビ其他ノ事項ヲ掲ゲテ以テ讀者ノ參考ニ資セントス

【產地】日向國南那珂郡市木村字石波浦（其他種子ケ島、土佐長岡郡新改村字白岩、同高岡郡カラ谷等ニモアリ）

- 【名稱】大和橘（田村利親命名）、藪たちばな（牧野富太郎氏命名）
- 【形狀】細小扁圓形ニシテ上下凹凸恰モ普通ノ橘（前頁ノ寫眞ノ品）ノ觀ヲナス臍部天ニ向フテ結實ス
- 【色澤】黃金色ニシテ肌膚滑澤頗ル光輝ヲ有ス
- 【重量】五六匁乃至八九匁
- 【周回】三寸乃至四寸
- 【蒂】扁平ニシテ綠色突隆シ其他蒂附着ノ邊ハ最モ滑澤美麗ナリ
- 【臍】扁圓ニシテ少シク小凹ヲ呈ス
- 【油胞】微細、緻密、陷凹針痕ノ狀ヲ呈ス
- 【縱徑】六分乃至八分
- 【橫徑】一寸乃至一寸二分
- 【外皮】皮ノ厚サ薄キハ一分厚キハ二分許ニシテ頗ル剝離シ易シ
- 【中心】貫孔巨大ニシテ白色ノ纖維蒂部ヨリ臍ニ向テ貫通セリ
- 【瓢囊】七八個乃至十個分離最モ容易ニシテ外ヨリ内部ノ種子ヲ透見スベシ
- 【沙瓢】白色柔軟ニシテ短ク且ツ大小最モ不齊ナリ
- 【漿液】甚ダ僅少ナリ或ハ殆ンド無キモノアリ
- 【香味】酸味峻烈一種ノ香氣アリ殆ンド食フベカラズ
- 【種子】七八粒乃至十二三粒肥大ニシテ果ノ内部ハ殆ンド種子ヲ以テ充塞セリ
- 【刺針】枝朶ノ間ニ多少強剛ナル短刺アレドモ亦殆ンドナキモノ多シ氣條ニハ長刺アルヲ常トス
- 【枝朶】稠密濃綠ニシテ普通ノ橘ニ比スレバ頗ル強健ナリ

日本固有ノ柑橘やまとたちばな

前年川神枝ナリニ
 眞野社而ハリニ
 出富乞テ少ニ
 ル郎殿ヒ本ヲハ
 普氏側得ハ品進
 通共栽當生歩ク
 ち東七植時ヤカ
 ば京セ影まじ
 な坂アレタとヨ
 眞寫ノナシハ
 先ハ氷ノモル
 之ニ

ス稱ト

斷枝片葉 (其四)

【葉】 深綠色ニシテ稍厚ク頗ル光澤アリ邊緣ニ不明ノ鈍鋸齒ヲ具フ

【結實】 結實豐富ニシテ常ニ樹上ニ存シ脫果スルコト少ナシ

【熟季】 十一月頃ヨリ黃色ヲ呈シ翌年一月頃ニ至リ最モ美麗トナル

【貯藏】 採取スルトキハ萎縮スルコト最モ速カナリ

尙ホ此大和橘ニ就テノ詳細ノ記事ハ余ガ將來ニ公ニスベキ日本柑橘全誌ニ之レヲ具セリ

○斷枝片葉 (其四)

牧野 富太郎

●ちゃんばぎく

けし科ニ屬スル大形ノ多年生草本ニたけにぐさト云フ者ガアツテ山野ニ生ズルニ之ヲちやんばぎくと稱スル其他尙さゝやさぐさ、おほかみぐさ、おほかめだふし、うらじろ等ノ名ガアル私ハ右ノちやんばぎくハ蓋シ占城菊ノ義デアルト思フ占城即チチャパン (Tsiamp) ハ交趾支那 (安南) ノ南部ノ地域デアアル此草ハ固ヨリ同地カラ渡來シタ者デハ無論ナイガ形狀不類ノ大草本デアアルカラ何處カラカ舶來シタ草デアアルト誤想シ從來渡來ノ草木ニ唐トカ朝鮮トカ或ハ和蘭トカノ國名ヲ冠シテ呼ンデ居ル様ニ右ノ占域ヲ頭ニ加ヘタ者デハナカロウ歟ト思フ又菊ト云フノハ其葉ガ分裂シテ略ボ菊葉ニ類スルカラソウ言ツタ者デアロウ人ニヨツテハ偶ニ之ヲちやんばんぎくと呼ンデ居ルコトガアル又さゝやさぐさとハ其果穗ヲ震搖スルト耳語ク如ク音ガスルカラ斯ク言フデハナカロウ歟ト思フ其音ノスルノハ蒴中ノ種子ガ果皮ニ衝突スルカラデアアル此草ハ其莖葉ヲ傷ルト柑黃色ノ液汁ガ出ル毒草デアアルガ民間デハ處ニヨツテ藥用ニ供スルコトガアル小野蘭山ノ本草綱目啓蒙ニハ『根ハ長クシテ黃色甚黃芩ニ似タリ故ニ古ハ和ノ黃芩ト稱ス今モ切タル黃芩ニハコレヲ雜ユ藥肆ニサシコミト呼ブ』ト記シテアルガ今日デモソクナコトヲシテ居ルカドウカ、從來我邦ノ本草家ハ之ヲ本草綱目卷ノ十